

新型「コロナ」危機を乗り越えるために

◆我が国のコロナ感染症対策の誤り

昨年12月末に中国がWHOに報告した原因不明の肺炎は、1月中旬にウイルスが特定されて以来、3月3日現在で64カ国と地域に広がり、感染者は8・7万人超、死者は約3千人となりました。日本でも1月中旬に確認された1例目から260人へと増加、中国、韓国、イタリヤ、イランと共にWHOの懸念の対象となっています。クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の横浜港への着岸後、3700人余りの乗員・乗客にも次々と発症。下船後も増えて706人（5人に1人の感染率）となり、管理体制も含め、感染防止対策の失敗は明らかです。

阿部とも子は2月26日の予算委員会で、菅官房長官の認識と責任の明確化を迫りました。危機感を欠く対策にもかかわらず、「全力で取り組んできた」と強弁し、不誠実な答弁に終始しました。

◆検査体制の不備は不安を煽るばかり

2月7日の予算委では阿部とも子は感染疑いのある患者への検査体制が十分として検査能力のある施設の把握と、検査体制整備を求めました。患者が病院を訪ね、医師が必要と判断して保健所につないでも、検査に至らない報告が各地であり、政府のその後手手の対応は不安を煽る一方です。そんな中、安倍総理は3月2日からの全小中高校、特別支援学校の休校を唐突に要請。低学年・障害児等の子を持つ親、学校現場の混乱は計り知れません。野党共同会派で子どもの居場所や親の所得補償を求めて29日に政府に要請。今後の対応を注視します。

新型コロナウイルスについての「心配な点について、FAX（0466-52-2681）やメール（inochi@shonanfujisawa.com）でお寄せ下さい。



2月26日予算委で官房長官に質問

◆危機対応の根幹は国民との対話

多くの国民は十分な知識も情報も与えられないまま、登校や集会の制限を指示されています。思い付きの危機対応ほど、弊害の大きなものはありません。人、モノ、カネの流れに混乱を来し、国民生活や経済を緊縮させます。今後の見通しも明らかにされていません。安倍総理は党首討論も受けず、予算委員会にも「桜」などの追及を恐れ限られた時しか出席せず、記者会見での質問すら制限してきました。国民の信頼がなければ危機は乗り越えられません。安倍総理は、危機対応の責任者として失格だと思えます。



衆議院議員あべともこ
プロフィール

神奈川12区（藤沢市・寒川町）
当選7回、東京大学医学部卒業、
小児科医、あべともこどもクリニック（湘南台）理事長
現在、衆議院厚労委員会／議員連盟「原発ゼロの会」事務局長



あべともこ
公式Twitter
@abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko



あべともこ事務所
公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索

あべともこと共に歩む会後援会入会のご案内及びボランティアスタッフ募集中！

特定の企業や団体などに依存しないあべともこの活動は、後援会の年会費やカンパによって支えられています。あべともこの活動にご支援頂ける方は、お気軽に事務所にお問い合わせください。

立憲民主党神奈川県連

〒231-0012

横浜市中区相生町4-69-4F

TEL 045-228-8591

FAX 045-228-8592